Management Club Report

May.2011/Vol.101

Monthly Opinion　≪学卒スタッフの使い方≫

４年生大学を卒業した女性が歯科医院へ就職するケースが増えています。実際、私たちが毎月訪問している歯科医院でも、また公開セミナーに参加する各医院のスタッフの中にもちらほら散見されるようになっています。

彼女たちに直接、歯科医院への就職動機について尋ねたことがありませんので、真意のほどは判りかねますが、おそらく歯科医院が魅力溢れる職場として、やりがいのある仕事と思って就職した人は恐らくいないのではないでしょう。

歯科医院にも彼女たちにも双方に失礼な言い方にはなりますが、就職氷河期の今、とりあえずどこかに勤めるために、『やむを得ず』就職しただけというのが実態でしょう。歯科医院を就活先に定めて何軒も回り、ようやく憧れの歯科医院に入ったという人はいないと思います。それは小さな町工場や、商店街の個人商店を就職先に選ぼうとする女子大生がいないのと同じことです。

しかし、そのような中でも歯科医院は選ばれ始めているようで、私はこの現象に注目しています。大企業や一流企業、地元の名門企業に次いで、女子大生の就職先候補に歯科医院が選ばれ始めていることを歯科界は何かを変えるための契機として活用すべきではないでしょうか。

仮に、第一志望や第二志望からは程遠かったとしても、小さな町工場や商店街の個人商店とは一味違う魅力を歯科医院に感じてくれた彼女たち学卒スタッフを失望させることなく、というよりも、もっとそこにやりがいや働きがいを見出せるようにすることができれば、歯科医院は本当に魅力溢れる職場へと大変貌を遂げることができるように思います。今月は、“学卒スタッフの使い方”について述べてみました。

1　４年制大学を卒業することの意義

大卒者に現実的な価値はあるのか？

「当医院に４大の新卒が入りました」

そう語る院長の表情は、どこか自慢気に見えます。

今の時代、４年制の大学を出たからといって、さして価値があるとは思えないのは、自分自身がそうであった過去を振り返れば明白です。勿論、中にはしっかり勉強をし、専門的な仕事に生かせるような知識を身に付けた人もいるでしょうが、大学が大学経営者のビジネスとしての様相が濃くなり出した戦後の経済成長期以降、大学は入ることに意義があり、大学で勉強したかどうかにはあまり重きが置かれなくなって行きました。

大学は出るよりも入ったことに意義がある？

「へー早稲田の政経出てんだ！」という敬意を含んだ驚きの表現は、『早稲田大学政